

ス類など、多様な草本類が生えた山かげの山道法面をスイーピングして得られたものである。両種のホストについて今回確認することはできなかったが、ミヤマカタバミやヘクソカズラなどにノミハムシ類がつけたと思われる特有な食痕がついていたことを付記する。

末筆ながら、モリモトタマノミハムシの文献記録についてご教示下さった久留米市の今坂正一氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 今坂正一, 2001. 島原半島の甲虫相4. 長崎県生物学会誌, (53): 65-84.
- 今坂正一・三宅 武, 2009. 大分県で採集した興味深い甲虫(1989-1996). 二豊のむし, 大分, (47): 29-46.
- 今坂正一・西田光康, 1989. 1989年に採集した多良岳の甲虫. こがねむし, 長崎, (50): 1-14.
- 今坂正一・齋藤正治・築島基樹・江頭修志, 2017. 2017年に釈迦岳で採集した甲虫類. KORASANA, (89): 1-92.
- Kimoto, S., 1965. The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands IX (Subfamily Alticinae II). Journal of the Faculty of Agriculture, Kyushu University, 13 (3): 431-459.
- 三好和雄・田中 馨, 1988. 山口県の昆虫, 鞘翅目. pp. 126-187. 山口県立山口博物館.
- Ohno, M., 1964. Revision of *Sphaeroderma*-species occurring in Japan and the Loo-choos (Coleoptera, Chrysomelidae, Alticinae). Journal of Toyo University, General Education (Natural Science), (5): 29-60.
- 末長晴輝, 2018. 岡山県におけるハムシ類の分布記録(4). すずむし, 倉敷, (153): 12.
- Takizawa, H., 2015. Notes on Japanese Chrysomelidae (Coleoptera), III. Elytra, New Series, 5 (1): 233-250.

- (末長晴輝 710-0807 倉敷市西阿知町 833-8
サンシャイン A205 号室)
- (大塚健之 732-0062 広島市東区牛田早稲田 1-11-2)
- (秋山美文 729-3511 神石高原町高光 3054)

【短報】キタミヤママグソコガネをナキウサギのため糞から採集

キタミヤママグソコガネ *Aphodius (Agolimus) setchan* Masumoto, 1984 は食糞性コガネムシ類の一種で、北海道の山地帯から高山帯にかけて記録されている(堀, 1997; 佐々木・堀, 1998; 芳賀, 2005)。

これまで、その食糞は、野生動物ではエゾシカやヒグマのものが知られている(岡島・荒谷, 2012)。また、ナキウサギ *Ochotona hyperborea* の糞も食糞としての可能性が示唆されていたが、未確認であった(堀, 2005)。今回、ナキウサギのため糞から本種を採集したので報告する。

2♂, 北海道上川郡東川町旭岳, 12. VIII. 2017, 筆者採集・保管(図1)。

本種を採集した場所は、大雪山国立公園旭岳の登山道脇(alt. 1,550 m)である。植生帯はハイマツ帯で草丈の低いチシマザサが優占し、その群落周縁にウコンウツギ, エゾツガザクラ, シダ類などが生育する。ナキウサギのため糞は沢に向かって緩く傾斜した斜面の植被と登山道の境にできた小崖地の下縁におよそ長さ25 cm, 幅6 cm, 深さ3 cmに広がっていた(図2)。糞は径3-4 mmの球形で、ため糞表面のものは乾燥し堅かった(図3)。



図1. ナキウサギ糞塊から採集されたキタミヤママグソコガネ。



図2. 採集場所の環境(図中の矢印がナキウサギのため糞)。



図3. ナキウサギのため糞。

しかし、中程の深さの糞は湿っており柔らかく、底部ではカビが生えたり、形が崩れていたりするものもあった。ため糞の中程の深さから本種2個体を採集した。なお、採集場所は国立公園特別保護地区外である。

ナキウサギには、ため糞をする習性があり、なわばり内に何カ所かのため糞場がある(川道, 1994)。しかし、通常ナキウサギは岩場の隙間に生息するため、今回のように、ため糞場が地表に見つかることは少ないと思われる。おそらく、冬期に小崖地周辺に雪道を掘って生息していた個体のため糞場が融雪により現れたのだろう。

本種の採集記録は少ないが、最も早い記録が6月19日、糠平川: alt. 800 m (高橋・春沢, 2014)、最も遅い記録は7月29日、大雪山: alt. 2,000 m (Masumoto, 1984)である。記録のほとんどが7月で、本記録が最も遅い記録である。

末筆ながら、文献をご教示いただいた保田信紀氏に厚くお礼申しあげる。

引用文献

- 芳賀 馨, 2005. キタヤママダグソコガネを十勝支庁上士幌町で採集. 甲虫ニュース, (150): 22.
- 堀 繁久, 1997. 白滝村平山のキタヤママダグソコガネについて. Lamellicornia, 12: 1-2.
- 堀 繁久, 2005. 北海道高山マダグソコガネ. 鯉角通信, 別冊(2005年11月): 34-36.
- 川道武男, 1994. ウサギがはねてきた道. 270 pp. 紀伊國屋書店, 東京.
- Masumoto, K., 1984. New coprophagous Lamellicornia from Japan and Formosa (III). Ent. Rev. Japan, 39: 167-173.
- 岡島秀治・荒谷邦雄監修, 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 444 pp. 学研教育出版, 東京.
- 高橋 敏・春沢圭太郎, 2014. コガネムシ科: 食糞群. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録, (3): 47-100.
- 佐々木邦彦・堀 繁久, 1998. Pitfall Trap で捕獲された北海道のコガネムシ類. Lamellicornia, 14: 17-29.

(磯 清志 070-0901 旭川市花咲町3丁目
北海道旭川北高等学校)

【短報】三重県で採集されたユーラシアシジミガムシ
ユーラシアシジミガムシ *Laccobius (Laccobius) minutus* (Linnaeus, 1758) (図1) は、ヨーロッパ産の標本をもとに記載された種であり、国外ではヨーロッパのほぼ全域のほか、ロシア、キルギス、トルコ、モンゴルに分布する (Hansen, 1999)。国内からは、近年になって兵庫県の加古川市および加西市から記録され (上手・森, 2018)、現在のところ他の地域からの報告はないようである。今回、筆

者らが保管している三重県伊賀市産シジミガムシ類の標本を再検したところ、本種が含まれていることを確認した。そこで、現地での追加採集による記録も含め、国内2県目の産地としてここに報告する。なお、当地では同所的に同垂属のミユキシジミガムシ *L. (L.) inopinus* Gentili, 1980 も生息しているため、雄では交尾器の形状 (図2) で種を判別した。また外部形態の特徴として、ユーラシアシジミガムシは上翅がより暗色になる傾向があることや、体長がやや小さいこと (上手・森, 2018) のほか、頭部および前胸背の網状印刻がより強いことから (図3) (森正人氏, 私信)、雌についてはこれらの形質を用いて総合的に種を判別した。

当地でのユーラシアシジミガムシとミユキシジミガムシの採集記録は以下のとおりである。いずれも採集地は三重県伊賀市法花であり、標本は採集者がそれぞれ保管している。

【ユーラシアシジミガムシ】: 1♂, 18. X. 2008, 北野採集; 1♀, 13. IX. 2011, 苜部採集; 1♂, 7. X. 2018, 北野採集; 1♀, 7. X. 2018, 西原採集; 1♂ 2♀♀, 27. X. 2018, 北野採集; 3♂♂ 1♀, 27. X. 2018, 秋田採集。



図1. 伊賀市産ユーラシアシジミガムシ雄。



図2. 伊賀市産シジミガムシ垂属2種の雄交尾器中央片 (側面)。左: ユーラシアシジミガムシ, 右: ミユキシジミガムシ。なお、スケールは0.5 mmを示す。